

身近にあるもので防水～骨折経験者集まれ～

班番号10班 氏名 青木 甲斐 國岡 竹下 橋本 所属(普通科)

研究概要

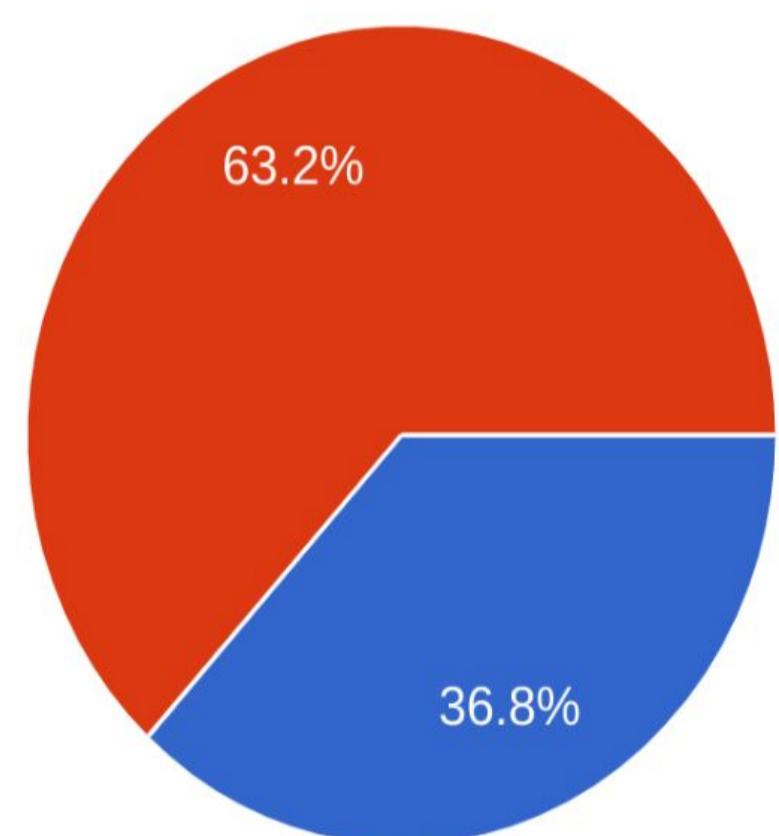
骨折した人の入浴を快適にかつ清潔にするために、繰り返し使えて低コストで簡単に作れる防水ギプスカバーを作成した。はじめは必要なくなった傘で作成し実験してみたがうまく行かなかった。次に防水巾着袋2つとスポンジを使用して作成したが少しの水が入ってしまった。しかし、糸で縫い付ける等の施しをし密着させれば未来あるものを作ることができた。

目的(研究動機)

班員の中に骨折経験者が多く、入浴時にギプスが濡れ、ギプスの中が蒸れてしまったり、悪臭を生んでしまったりなどの困った経験が見られた。また、点滴患者の入浴時にも同じ事案があると知った。そのため、ギプスが濡れることを防ぐための防水カバー(クイックカバー)を提案することにした。更に、今病院で使われる防水カバーは高価でありながら使い捨てであること、病院だけでなく普通の家庭でも需要があることに着目し、私たちは簡単に作れる低コストで繰り返し使える防水カバーを提案する。

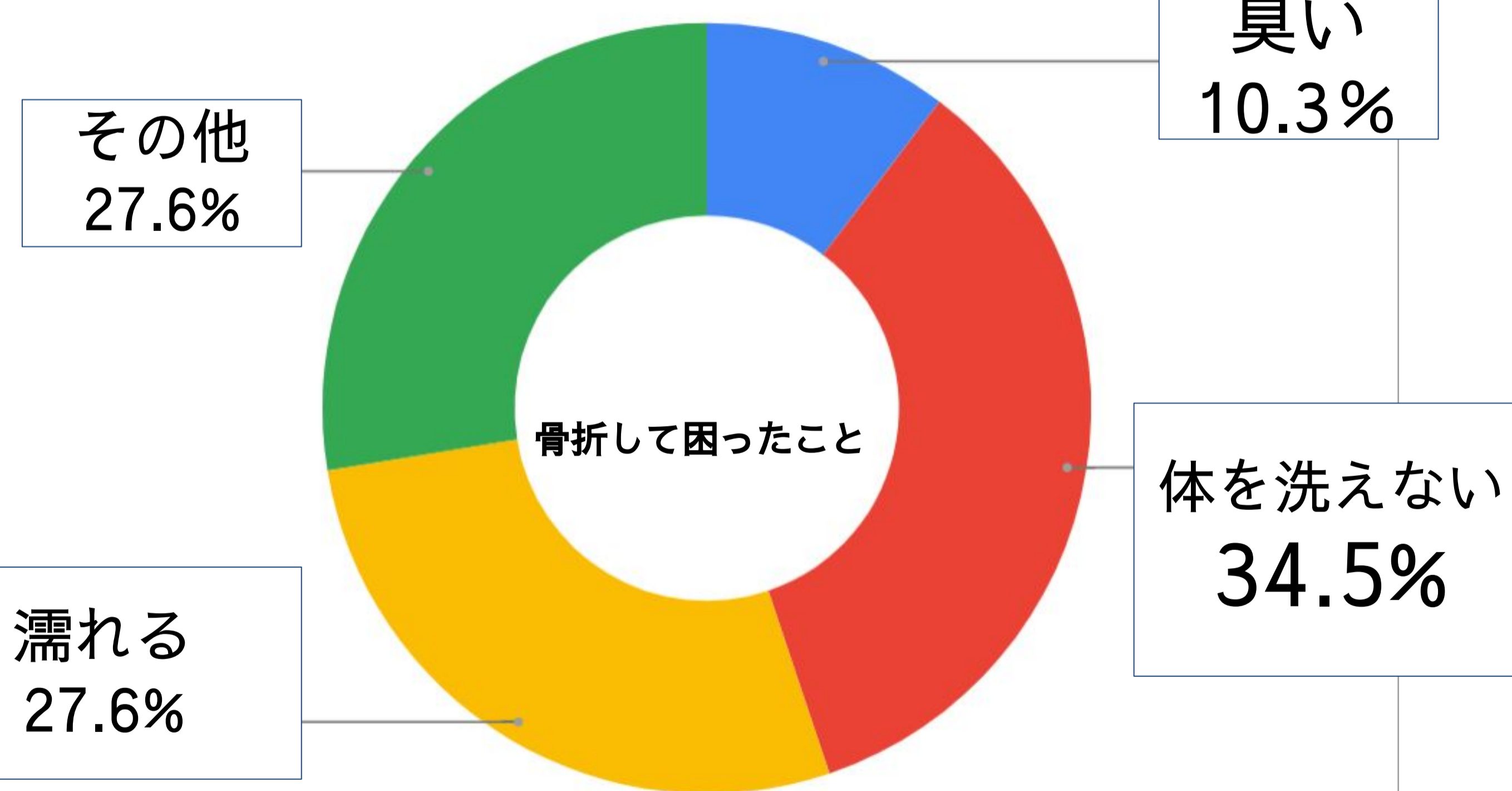
テーマ設定の経緯

骨折したことがありますか？
114件の回答



はい
36・8

いいえ
63・2



仮説

・100均にある収納袋(防水)の新しい使い方を発見することにより目的にあったものを作れるのでは無いか。

検証方法1(実験方法)

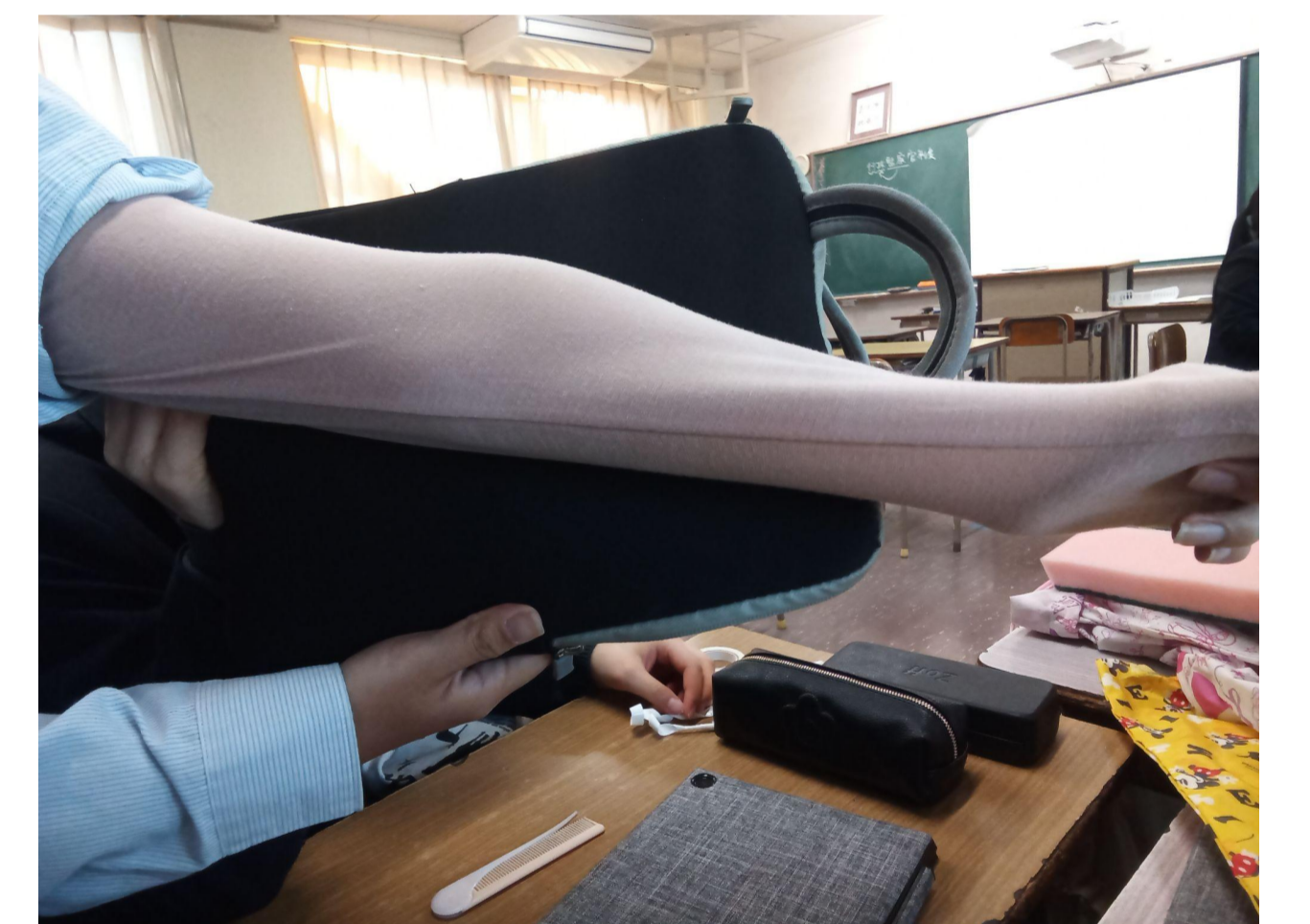
収納袋(防水)を2つ用意し、布用防水テープで接着する。使用するときには、肩と手首から水が入らないように縛る。



結果1 隙間が多く、肩のほうから水が入ってしまった。

検証方法2・・・(実験方法)

腕の入り口にスポンジをつけて入る水を受け止めるようにした。



結果2・・・

ほとんど水が入らなかった。またスポンジをつけたことで隙間も減り、圧迫感を抑えることができた。

考察

布用テープでは水が入ってしまった。腕の太さの個人差に対応できるようにいくつかサイズを用意できるとよりいいだろう。

結論

・要らなくなったものを使用することでやや防水もでき、無駄もなくす事ができた。